

地域福祉保健計画推進ニュース 第1号

港南区の地域福祉保健活動についてお伝えします! (年3回)

発行 平成23年7月
港南区福祉保健課
事業企画担当

第2期港南区地域福祉保健計画 (H23.4~28.3の5カ年計画)

「一人ひとりがつながり、お互いに支えあえるまちをめざして」が完成しました!
地域福祉保健計画はいつまでも安心して暮らせるまちづくりのための指標です!

東日本大震災!であらためて思う、隣近所のつながり支えあいの大切さ!

「突然の停電!」「電車のストップ!」「スーパー・コンビニ休業!食糧・必需品が買えない!」...など、不安な時を過ごされたことと思います。

このような状況の中でも、民生委員や町内会役員などの方々が、下校途中の子どもの見守りや声かけを行ったり、自宅まで付き添ったりしたほか、一人暮らし高齢者宅を訪問確認する姿を見ることができました。支援を必要としている人に「いざという時どのように対応するのか」という課題を改めて認識した方も多いと思います。

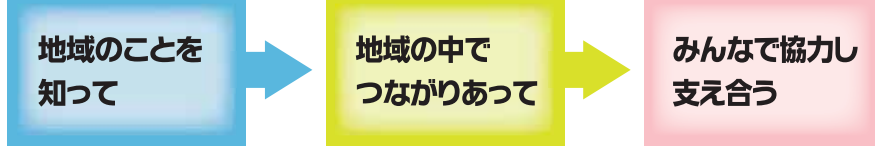
隣近所の声かけや、顔見知りになり、立ち話ができる関係など、日頃からの「つながり」を大切に、お互い支えあえる地域づくりをめざしましょう。

第2期港南区地域福祉保健計画とは?

誰もが住みなれた地域で安心して生活できるように区民のみなさん、関係団体、関係機関、行政が協力して、お互いに支えあえる関係をつくることを目指す計画です。

計画は、港南区全体の取組の方向性を示した「全体計画」と、15地区の特性を活かした取組計画である「地区別計画」で構成されています。

「一人ひとりがつながり、お互いに支えあえるまち」を実現するために



区民のみなさん、活動団体、関係機関とともに進めていきましょう!

詳しくは、計画冊子をご覧ください。(地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所等で配布しています。)

港南区社会福祉協議会 清水鐵夫会長

この度の震災により、日頃の地域のつながりの大切さを改めて感じました。一人ひとりがつながり支えあえる地域になるには、区民が主体となって行動することが必要です。この計画を基盤として港南区の福祉保健活動がさらに発展することを期待しています。

地域福祉保健計画推進フォーラムを、5月31日に開催しましたので報告します。

フォーラム プログラム

★第一部「港南区地域福祉保健計画とは何か?~地域のみんで進めていくために」



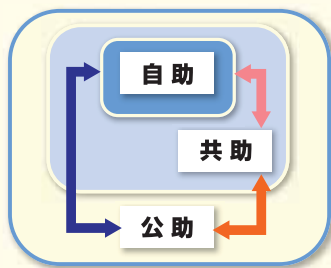
地域福祉保健計画を推進するために「自助・共助・公助」とは

計画策定推進委員会 落合一郎副委員長

現役で働いていた頃は、地域とつながりがありませんでした。リタイアした今、地域で活動していますが、できるだけ若い時から、元気な時から近所づきあいをしていることで、いざという時、困った時に助け合えると痛感しています。

まずは自分と家族は何ができるのかを考え、隣近所や地域でどのようにつながりあい、支えあうことができるのか、困った時に誰かに相談していけるように、「自助・共助・公助」をうまく関係づけながら、身近な地域での共助のしくみづくりを大切にしたいと思います。

「共助に意識を向けると、自助の力も深さを増す」と言えるのではないのでしょうか。



誰もが「支援の担い手・受け手」になることとは

計画策定推進委員会 五十嵐輝子委員

地域の高齢者サロンには、たくさん的高齢者やボランティアがつどい、趣味の活動、おしゃべりなどを楽しんでいます。

参加者の一人は、みなさんに手工芸を教えています。その一方で、会場まで自力で通うことが難しいため、地域の送迎ボランティアを利用しています。つまり、「支援の担い手にも受け手にもなっている」わけです。

サロンの中では、一人ひとりができる事に取り組み、続けて参加することが生きがいにつながっています。





第一部 地区別計画とは？

計画策定推進委員会 木村妙子委員

第2期計画の冊子には、15地区の地区別計画が掲載されています。

みなさんのお住まいの地区の計画をご覧になりましたか？

各地区にはそれぞれ特性がありますが、「私の住むまちがこういうまちになってほしい」「今、少子高齢化が急速に進んでいるので、こういう活動をした」など、目標をたて具体的な取組を掲げています。地域の人と人とのつながりが希薄になっている状況もあり、子どもから大人までが集まる「地域のつながりの場」を持つと、夏祭りや福祉フェスタなどのイベントで、たくさんの人と協力し合って活動を広げていきたいと思います。



フォーラムプログラム ★第二部「港南台地区」「永野地区」「永谷地区」活動発表

3地区発表内容

港南台地区 発表 地域で障がい児・者の活動を支援 ひまわり給食ボランティアの会 港南台給食フェスティバル

住民ボランティアが福祉ホームの障がい者の昼食をつくる「給食ボランティアの会や給食フェスティバル」があり、障がい者の元気な活動につながっています。地域のたくさんの人が関わり20年間楽しく続けている秘訣などを紹介しました。

港南台地域ケアプラザの障がい児・者の 余暇活動支援

港南台地区にある福祉ホームや特別支援学校などの障がい児・者が交流する場「ない」とくろーず」と「チャレンジ広場」を紹介しました。地域のボランティアと地域ケアプラザが企画運営し、楽しい時間を過ごしています。

永野地区 発表 民生委員児童委員協議会と地域包括支援 センターの連携で活動の広がりを

民生委員は、高齢者の見守り活動や介護が必要な人の対応など、地域包括支援センターと連携していく必要があります。民生委員研修会では、どのように連携していったらよいかをわかりやすく伝える方法として、「寸劇」という手法を取り入れました。地区が広く、5つの地域包括支援センターと民生委員、関係機関が協働で取り組んだ研修会とその秘訣を紹介しました。

永谷地区 発表 地区別計画の策定経過と推進活動 「ながーく住みたいながや ～みんなで作ろう地域の和～(地区別計画)」

永谷地区は面積が広く、永谷地区と芹が谷地区の自治会が入り組み、地区別計画をどのようにつくり進めていくのか、難しさを感じていました。

そこで、地域の関係者が話し合いを重ねた結果「要援護者対策を地域全体での取組として周知する」という方向性が出され、このテーマを中心に計画を策定しました。その経過と現在取り組んでいる活動を紹介しました。

また、永谷地区と芹が谷地区の様々な関係団体が協力し開催している「せりがや健康塾」を併せて紹介しました。

3地区活動発表への感想

港南台地区

20年間障がい者を地域で支えていることに感銘を受けました。地域の小さなボランティアグループの人のつながりや協力し合うことの大切さがわかりました。

地域ケアプラザで障がい者を支援していることを知り、自分の地域では障がい児・者が放課後どう過ごしているか？気になりました。



永野地区

寸劇という方法でわかりにくい制度などを伝える事は理解しやすいと思いました。

エリアが広い地区で4地域ケアプラザ、5地域包括支援センターの関わりは大変だが、連携が大切だと思いました。寸劇はとても楽しかったです。



永谷地区

地区の面積が広く、永谷地区と芹が谷地区の自治会が入り組んでいる事、要援護者の取組を主軸に連合町内会、地区社協などが苦労して計画を策定した経過がよくわかりました。

民生委員、保健活動推進員、ヘルスマイト、地域ケアプラザ、区役所などが一緒に取り組んでいる「せりがや健康塾」が参考になりました。



参加者の声

町内会関係者、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、保健活動推進員、シルバークラブ、ヘルスマイト、その他

感想

- ★もっと広く区民に区計画を知ってもらいたい。
- ★自助・共助・公助の考え方を自分の事として考えていきたい。
- ★地域ケアプラザ・地域包括支援センターの役割や地域との連携についてもっと知りたい。
- ★地域内での活動団体などの連携について考えたい。
- ★区役所、地域ケアプラザ等とのつながりを大切にしたい。
- ★介護保険制度など、制度について知りたい。
- ★新任(民生委員・保健活動推進員)のため大変参考になった。

今後取り組みたいこと!

- 自分の住む地域の状況に応じた地域活動を進めていきたい。
- 地域ケアプラザと連携しての研修会をやりたい。
- 支援の受け手(高齢者、障がい児・者など)が何を求めているかを聞く場を持ち、ニーズに沿って活動したい。
- 少子高齢化の現状を把握し、問題に対応したい。
- 「高齢者サロン」や「誰もが利用できるサロン」をつくりたい。
- 地域で健康づくり活動や支えあい活動に取り組みたい。

推進1年目スタート!

あらゆる機会を捉え、港南区におけるさまざまな「つながり」を強くするための区政運営に努めてまいります。

いつまでも住み続けたいと思える港南区づくりを、明るく元気に進めていくために、みなさんのご理解ご協力をお願いします。

港南区長 大貫一幸

平成 23 年度港南区地域福祉保健計画 推進事業の予定

- | | |
|-----|------------------|
| 7月 | 福祉保健推進会議 |
| 8月 | 策定推進委員会 |
| 11月 | 15地区別計画推進連絡会(仮称) |
| 2月 | 策定推進委員会 |
| 3月 | 区計画推進フォーラム |

港南区民生委員児童委員協議会 松井佑子会長

つながりあいの第一歩として、区社協・区役所の地域福祉保健計画が一体化したことに大きな意味があると思います。地域にはたくさんの支えてくれる人がいます。

協力し合ってみんなでつくり上げたこの計画を実現するために、一つずつ目標達成に向かって進みましょう。